

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名 称：安心感への多面的アプローチ

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

共催：日本感性工学会 協賛：自動車技術会

3 開催日時：令和4年11月5日（土）13:00～17:10

4 開催場所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

5 開催趣旨：

COVID19の大流行、異常気象、他国からの侵攻、核爆弾利用の脅し、福島事故後の風評被害など、昨今、従来にも増して不安感の強い社会状況が続いている。一方、道路交通における自動運転など新しい技術や地球温暖化を抑制する施策の社会実装においては、その技術や施策が社会に受け入れられる形になっている必要がある。ここで、江戸時代の「知らしむべからず」施策による無知に根ざした安心感ではなく、寺田寅彦の「正當に怖がる」ことが重要である。本フォーラムでは、「科学技術基本計画」（第6期から「科学技術・イノベーション基本計画」）にも継続してうたわれている人々が安心を感じる社会を実現するために必要な科学技術について、多様な専門分野の研究者から事例や考え方をご紹介頂き、安心感の構成要素を明らかにすることで、人々が安心を感じる社会の在り方を議論する。

6 参加人数：

講演者等：9名

その他の参加者：最大同時視聴者数102名

7 特記事項：

安心を正しく感じるための安心感の構成要素について、ソーシャルメディア、医薬品、AIを搭載したロボット、情報技術、自動運転、災害や新技術、カーボンニュートラル等を事例に議論した。社会インフラ、教育との関係についても意見が出たので、今後はこれらの点を加味しながら「見解」を作成する。

本フォーラムの成果は、総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会の審議活動（意見の表出）に反映される。